

上海事変に関する邦文図書文献目録

回答

①この文献目録は、国会議員からの要求により作成した『上海事変の経緯に関する文献目録』に他の関連資料を補足したものである。

②この目録は図書に限定し、採録範囲は昭和7年以降現在に至るまでに刊行された図書であり、排列は図書の刊行年順とした。カッコ内は当館の請求記号である。

岡野俊吉著 海軍省編刊 上海事件を中心として 昭和7 24p (372—543)

海軍省編刊 上海事変に就て 昭和7 27p (373—585)

同上 上海事変と帝国海軍の行動 昭和7 17p (373—594)

同上 上海事変に関する虚報に基く誤解を解く 昭7 11p (373—595)

同上 和上海事件の経過 其1～6 昭和7 66p (672—58)

信夫淳平 上海戦と国際法 丸善 昭和7 527p (621—221)

村松梢風 上海事変を語る 平凡社 昭和7 240p (621—3)

偕行社編刊 上海問題研究資料 昭和7 430p (621—119)

榛原茂樹, 柏正彦 上海事変外史, 付満洲建国始末 金港堂 昭和7 582p (621—102)

英文和文 リットン報告書全文 中央公論社 昭和7 (319.122—Ko548k)

神田正雄 リットン報告書全文解剖 海外社 昭和7 310p (319.22—Ka394)

外務省編刊 国際連盟支那調査委員会報告書ニ対スル帝国政府意見書 昭和7 64p (319.122—G13k)

鈴木文四郎編 リットン報告書全文 解説並に關係条約文 その他附録 朝日新聞社 昭和7 267p (310—171)

国際連盟事務局東京支局編 国際連盟における日支問題議事録 国際連盟記録刊行会 昭和7 322p (319.122—Ko548k)

上海事変と我海軍 他3 昭和8 169p (631—250)

陸軍省調査班編刊 上海事件と陸軍派遣に至る迄の経緯他1 昭和8 107p (644—80)

上海居留民国編刊 上海事変誌 昭和8 969p (210.72—Sy922s)

小松謙堂 満蒙から上海へ 第13篇 上海事変の経過 玲文社 昭和8 (210.72—Ko555m)

外務省情報部編刊 満洲事変及上海事件関係公表集 昭和9 815p (210.72—G13m₃)

中央満蒙協会編 満洲事変日録史 外交時報社 昭和9 180p (210.72—Ty997m—H)

ロンドン王室国際問題研究所, 堀江邑一訳 英国の観た日支関係 清和書店 昭和13 262p (319.122—II47e—H)

葛生能久 日支交渉外史 下巻 38 上海事変 黒竜会 昭和14 (319.122—Ko548n)

日本国際協会編刊 最近日支関係史(太平洋問題資料7) 昭和15 102p (319.122—N685s)

対支功労者伝記編纂会編 続対支回顧録(上巻) 第三章 上海事件 (702—50)

伊藤政之助 戦争史 世界現代篇(一) 第九篇 第十章 上海事件 戦争史刊行会 昭和17 (718—116)

近代日本史研究会 満洲事変前後 白揚社 昭和18 433p (210.72—Ki234m) (82頁につづく)

稀観書が多い。

5)は旧帝国図書館(戦後国立国会図書館支部上野図書館)で収集した約5,000点を収録。その大部分が“日本函”として現在もまとめて収蔵されているが、蔵書の内容は全般、全時代におよぶ。とくに日本で刊行された日本人による欧文図書、政府出版物を多く含んでいるのは納本制度に負うところが大きい。著者索引、件名索引を付す。3)は1948年～1962年に国立国会図書館が収集した2,300点を収録した予備版で、この分を含み1948年～1970年までの収蔵分約4,300点の蔵書目録を現在編さん中である。

なお、総合目録としては、国際文化会館図書室編集の Union catalog of books on Japan in Western languages. 543p. が1967年に出された。(請求記号GB 1-3)これは上記三館の蔵書目録を一本にまとめたものに、同会館図書室の蔵書その他若干を収録している。いずれも東京所在のものである。所収点数はおそらく7～8,000タイトルにのぼるであろうが、これに1,000～2,000タイ

トルほど加えた概略10,000タイトル余がおそらく日本に現存する日本関係欧文資料の概数だと考えてよいであろう。なお上記三館以外で所蔵する日本の特殊主題に関するコレクション——たとえば上智大学のキリシタン文庫や東大史料編纂所の日本関係海外史料目録等については別項でとり上げる予定である。

以上日本関係欧文書誌を通観して感ずることは、日本自体がこのような書誌を作成していないことの不便さで、またそれぞれの書誌分類方式がまちまちなため、一定主題の資料の検索がかなり困難である点である。日本人によるこうした書誌(ないしは検索ツール)の作成が望まれる。また上記のように、近来在ヨーロッパの史料のフィルム化や目録作成がおこなわれつつあるが、日本に現存する日本関係欧文資料はおそらく全体の三分の一にも満たないであろうから、日本における対外交渉史その他の研究分野での未開拓部分もかなり広いであろうことがうかがわれる。

(未完)

(はやし・こうのすけ:参考書誌部人文課主査)

(48頁よりつづく)

重光葵 外交回想録 七 日ソ衝突、満洲・上海事変 (pp. 103—138) 毎日新聞社 昭和28 (319. 1—Si291g)

歴史学研究会編 太平洋戦争史(1) 満洲事変 東洋経済新報社 昭和28 268 p (210. 75—R18t)

英修道 満洲事変から日本の国際連盟脱退まで (日本外交学会編 太平洋戦争原因論のうち pp. 231—270) 新聞月鑑社 昭和28 (210. 75—N684t)

青木得三 太平洋戦争前史 第一巻 第四篇 上海事件前後 学術文献普及会 昭和28 (210. 75—A592t—g)

日本国際政治学会太平洋戦争原因研究部編

太平洋戦争への道 第2巻 満洲事変 第五章 第一次上海事変 朝日新聞社 昭和37 (210. 75—N685t)

同上 太平洋戦争への道 別巻 資料編 上海事変 (pp. 187—207) 朝日新聞社 昭和38 (210. 75—N685t)

小林竜夫、島田俊彦解説 現代史資料7 満洲事変 みすず書房 昭和39 670 p (210. 7—G29)

同上 現代史資料 11 続満洲事変 昭和40 1024 p

本庄繁 本庄日記 原書房 昭和42 426 p (210. 72—H643h)